

## 第 1 回丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会ワーキングでの意見とその対応

項目	No	発言者	意見の概要	県の回答など	推進計画記載箇所
他 地 域 と の 連 携	1	市島地区代表 井上委員	下流の京都府との取り組み、連携は どのようになっているのか。	総合治水は、兵庫県が先駆けた独自 の取り組みであるため、当面は地先 の浸水被害を軽減させるといった 観点で進めたい。	
	2	市島地区代表 井上委員	加古川水系での総合治水推進計画の 考え方との調整はどうするのか。	基本的な考え方は統一したものとな るが、加古川での検討は、今年度、 来年度の2カ年で行う。	
河 川 対 策	3	市島地区代表 井上委員	竹田川は、堆積土砂が多く、天井川 になっており、内水処理が難しい。 土砂の撤去、流入土砂の対策が重要 だと考えられる。	財政的制約はあるが、必要な対応は 進めていきたい。	
留 意 点	4	市島地区代表 井上委員	防火用水の観点からも考えることが 必要ではないか。	本計画は治水に対するものである ため、防火用水が治水にも効果があ る場合には考慮できる。	
防 災 情 報 に つ い て	5	市島地区代表 井上委員	サンテレビでの防災関連情報は、丹 波市では、加古川だけなので、竹田 川の水位も確認できるようにしても らいたい。	インターネットでは、閲覧可能であ る。 NHK総合のデータ情報は、川の防 災情報と連携しているため、竹田川 も閲覧できるかもしれない。サンテ レビについても地元のテレビ局で あり、可能であれば調整したい。	
	6	丹波土木 川崎副所長	ケーブルテレビや防災行政無線等、 災害時に各戸に情報を配信できる仕 組みはないか。	警報が出たからといって自動で配 信されるわけではないが、各戸のス ピーカーに発信することはできる。	
森 林 整 備 に つ い て	7	西紀北地区代表 山崎委員	現実的にどこまでできるのかは疑問 だが、混交林整備や間伐を進めても らいたい。	地元合意の基、まとまった単位で要 望を挙げてもらえれば、事業化も可 能である。	5-5 森林などの流出抑制機能を有す る土地の保全等 (P. 35)
た め 池 ・ 水 田 貯 留 に つ い て	8	西紀北地区代表 山崎委員	ため池や水田貯留は、住民の意識改 革を行わないと難しい。	意見交換等を踏まえ、課題解決に向 けた取り組み等の検討を行い、理解 と協力を得た上で、推進する。	5-2 雨水貯留の取り組み (P. 23)

地域の状況について	総合治水の浸透	9	春日地区代表 尾松委員	総合治水の取り組みは、あまり知られていない。市民を巻き込んで実施していくためには、どのように理解してもらうかが重要である。	今後も総合治水の取り組みを積極的に広報する。	
		10	市島地区代表 井上委員	総合的に治水を考える必要があり、よい取り組みであるが、県民にどう知らせ、理解を得るかが重要である。理解を得られれば進んでいくと考えられる。	上記に同じ。	
	防災訓練	11	市島地区代表 井上委員	年に1回は、防災訓練を実施する。地区毎に水害や火災等、実施内容は異なる。水害訓練を行った際には、年配の方は訓練でもパニックになった話を聞いた。対応が難しい。	防災関係機関と連携して、水防訓練等を推進していただきたい。	6-6 訓練の実施(P. 61)など
		12	春日地区代表 尾松委員	土のう訓練等は実施している。防災マップは作成しているが、避難訓練は実施していない。	上記に同じ。	6-4 浸水による被害の軽減に関する学習(P. 50) 6-6 訓練の実施(P. 61)など
		13	西紀北地区代表 山崎委員	市の方から防災訓練実施の誘いがあり、今年6月に大雨対策として、自衛隊等も交え大規模に実施した。	今後も継続して大規模水防訓練の実施を推進していただきたい。	6-6 訓練の実施(P. 61)など
	流域対策実施に向けた課題	14	丹波農林 小舟副所長	現状では、水田貯留の実施には課題が多く、よく協議の上、進めていく必要があるという段階である。	意見交換等を踏まえ、課題解決に向けた取り組み等の検討を行い、理解と協力を得た上で、推進する。	5-2 雨水貯留の取り組み (P. 23)
15		西紀北地区代表 山崎委員	水田貯留は、費用を掛けずに対策できるよい考えであるが、リスクもある。みんなの同意が得られれば、効果は大きいと考えられるが、簡単ではない。	上記に同じ。	5-2 雨水貯留の取り組み (P. 23)	
16		市島地区代表 井上委員	田んぼも遊水地ではあるが、農家からすれば、抵抗があり、割り切った考えを持つのは難しい。	上記に同じ。		